

かわさきパラムーブメント推進フォーラム
ひとづくり・おもてなし分科会 議事録

日時 平成 27 年 11 月 26 日 (木) 18:00~20:00

会場 川崎市役所 第 3 庁舎 12 階総合企画局会議室

出席者

委員 大塚委員、小倉委員、土岐委員、中澤委員、中村委員、北條委員、
齊藤委員代理 (山田委員の代理)、ロー委員

オブザーバー JOC 中森氏

事務局 唐仁原都市経営部長、山本企画調整課担当課長、佐藤企画調整課担当係長
市民・こども局企画課阿部担当課長、経済労働局商業観光課松元課長
ADK

議題 開会

唐仁原部長あいさつ

委員紹介、事務局紹介

議事

- (1) 2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた本市の取り組みについて
- (2) 取組提案について
- (3) その他 (次回会議等の開催等)

【以下発言要旨】

開会 山本課長

挨拶 唐仁原部長

- ・今回はまずは委員の皆様の提案の共有が目的→その上で実現手法を検討していく
- ・川崎市では来年度オリパラの担当部署を設置する

資料確認 山本課長

委員・事務局自己紹介 大塚委員から順に全員

議事進行 石山氏

- (1) かわさきパラムーブメントの推進に向けた検討状況 佐藤係長
- (2) 取組提案

1. 大塚委員

- ・すでに実施している事業を川崎市でできないかという提案
 - ・障がい者＝外出に対する不安が大きい→入れる場所がどこにある？
- 正しい情報を提供することによって解消できる→「アクセシブルなび」
- Ex; トイレ＝全体の10%しか対応できていない
- ・世の中でのバリアフリー情報＝店側の提供情報×障がい者のほしい情報
 - ・障がい者の取材者、同行ボランティア募集＋店、施設の募集
 - ・3月から取材開始
 - ・この結果はベビーカーユーザーにも適応できる
 - ・パートナー＝ぐるなび→ここに取材独自の知見を入れる
 - ・事業展開イメージは少なく見ている→この倍はいけるのでは
 - ・市、ぐるなび、商工会議所、地元飲食店の協力がほしい
 - ・ホテルの情報もない＝HP上にのっているのは2カ所だけ～情報がうすい
- (質疑)

ロー委員 移動制約者に子連れで必要な条件もいれてほしい

ex; おむつがえ、お湯もらるかなど

小倉委員 市(区ごとの)のガイドブックがあるので、それも参考になるのではないか

事務局 これまでは協賛を集めているのか？

→全店舗からもらっている～福祉的な話でなく新たな客層の獲得という観点がある＝ビジネスとしてとらえている 年間3,000円～ 大きいところ10万

2. 小倉委員

- ・身体障がい者だけでなく、マイノリティ、外国人も対象にするべき
 - ・彼らを理解する機会が少ない～社会福祉協議会でやっているが少ない
- 本人の話を聞くことが重要
- 広げていくことで多くの市民に広げていくべき
- ノーマライゼーションをわかってもらうプログラムへ
- ① 学校教育で展開すべき
 - ② 全市的にひろめる施策
 - ③ 外国人にわかる表現 ex;ピクトグラム
 - ・日本語ひらがなルビは小1、2レベルでないとわからない
 - ・ハラルミート、ベジタリアン対応～イスラム圏、インド圏
- ～現在は多くはお弁当で対応している
- ・青少年の家＝80名でも対応できている
- ・駅のバリアフリー再調査
- ～十数年前調査やったが状況が大きく変わっている(川崎駅、武蔵小杉駅など)

(質疑)

ロー委員 個別に似ているところがある～最終的に調整、統合していくのか

3. 土岐委員

・自分の立場でオリンピックにどう関われば良いのか、これまではあまりピンときていなかったが、今日の話聞いてエンターテインメントの分野の関わりに気づいた。

・日経新聞～東京オリンピック＝文化の祭典という記事で関係性を思った

・商業施設の役立つ方法を考えていけるかもしれない

～ハロウィン～仮装の楽しみを障がい者にも広げていく

～最近のアートイベント～いろんな才能の表現

(質疑)

唐仁原部長

・市としてはパラムーブメントで、パラに力入れるが、文化・スポーツ両輪
→国の文化プログラムが出来ていないので、今後それも見て参考にしていく
北條理事長とも連動していくべき

司会

ロンドン文化プログラムにおける障がい者アクティビティは大規模なものだった

4. 中村委員

・マンションデベロッパーである

・バス路線整備などで施設を結んでいく＝沿線上のリンク

・中長期的な内容

5. 北條委員

・点でやっているそれぞれの活動を線として、面としてやっていくプラットフォーム

・施設のバリアフリー～人的対応等現場ではいろんなことをやっている

・バリアフリー映画上映～年 7～8 本やっている

・ジェイミーのコンサート～小川典子氏ミュージアアドバイザー、ロンドン在住

・東京スターダンサーズバレエ団～日本トップクラス→パラ開会式目指す

・日本のパラアート、バリアフリーをプラットフォームと作ることで発信していく

・中長期的には、パラ開会式をめざすのが一つ＝東京中心でなく、川崎からも発信

・事業費＝既存の事業でなく、全体でやるもの新しいもの～収入も有料入場が前提

・機材・器具の開発が重要 ex;東宝が考えている～ソフトほかも

(質疑)

司会 プラットフォームは具体的にはどこで考えているか？

→市でやるか、市が予算化して財団などでやる＝予算化が絶対必要

6. 齊藤委員代理（山田委員の代理）

- ・経営革新セミナー（企業家カレッジ）という名称で行っている
- ・大学のような形式→これをかわさきパラムーブメントに持ってこれるのでは
- ・会員組織として 6000 社加盟している（川崎市内外）
- ・川崎フロンティアビル 2 階に 300 名収容できる自前の会場がある
- ・広報としても、機関誌年 10 回発行→ここで事業等掲載 PR 可能（質疑）

司会 企業家カレッジの実施状況は？

→企業家カレッジ 月 5~6 回（年 50 回程度）開催、各区の支所でもやっている

→会員は無料参加、そうでない場合有料（約 2,000 円など）も～内容によって、公共性の高い場合などは無料もあり

7. ロー委員

- ・大きく分けて二つ＝地域全体に関わるもの＋川崎市をモデル地区でやっているもの
 - ・市の事業＝広報力がない ex:災害情報でも届いていない場合がある
- ～広く市民に知ってもらおうということが必須である。
- ・市長がレジェンド言っている→川崎レジェンド事業
 - ・事業をレジェンドとして認定→カード化する
 - ・行政の事業＝予定調和になりがち→これを崩していく
 - ・メディアが取り上げたくなる要素を散りばめている
 - ・区対抗グランプリ～南北区の融和、交流/普段行政の発想にないやりかた～川崎市全体を知ってもらう
 - ・かわさき防災コミュニケーター事業～ダイバーシティの具現化
 - ・要配慮者支援をわかりやすく表現する～A3 1 枚に
 - ・パラムーブメント対象に障がい者以外を入れることで、対象層が広がる→他の文脈で露出する可能性が広がる、「キーワード」が広がる&例えば LGBT と女性支援など対立する意見が融和しやすくなる

8. 中澤委員

- ・2016/4 月からはじまる「障害者差別解消法」が画期的なポイント
- ～企業はこれにどう対応するか…商工会議所セミナー、講演の依頼も多い
- ～企業としてのメリットが見えないと、長期にわたって対応できない＝社会の中の活動の一部としてビジネスでやっていけること
- ・子供は感性で対応できる～50 歳以上の層が一番わからない＝70~80 年代に学ばなかった

＝大人の教育が必須

・子供には「インクルージョン」～特別支援学校との交流等→2020年までに先進国水準に追いつけるか

・公共交通機関はできているが、「運用」が不足

・タクシーが問題～「福祉タクシー」～日本は通常タクシーと分けている

＝使いづらい、コールセンターにかける（流しダメ）、ワンコール 400 円

＝天候などで急に対応できない

→この辺を川崎から変えたらどうか

・ものづくりというテーマで、商工会議所で話す→みんなついてくる

・東京都＝ホテル税（年 1 億円）予算化→1 件 1/2 助成でバリアフリー化、コンサルフィーでも使える～大手はメリットがある

9. 杉山委員（代理事務局 佐藤係長）

・大きく 2 点＝飲食店情報検索サイトぐるなびに外国語版、バリアフリー、車いす情報を追加していく＋飲食店向けぐるなび大学

・インストラクター、コールセンターを設置していく

司会 メディア化してユーザー利用どうするか～杉山委員本人への取材が必要か

（3）意見交換

中澤委員

・JTB のコンサルをやっている～バリアフリー化するホテルは別パンフを作ったら売り上げが倍以上→パラムーブメントは民間が入っていかないと長期的なムーブメントとして成立しない

・色々な自治体は最初行政が旗を振るが、旗振りが終わればすべてがおわってしまう

北條委員

・文化事業はそれぞれ自立している～そこへ行くまでのバリアフリー化とか、そこはできない

中澤委員

・全体のストーリーを見えるように構築していくことが必要

・一つの目標として、オリパラのタイミングまで、それ以降生活レベルへ

・「障がい者だけ」でなく、皆が一緒の環境でやっていく

・日本人は分けたがる

ロー委員

・パラムーブメントは、いろんな事業との相性が高い、市の色々な施策にのつけられる

・関心のある人だけでなく、全部を貫ける ex:音楽の街＝音楽ファンだけ

・防災の観点からも多様な街づくりができる

・「子育て層」がキーワードでは～自分の経験から、子育てになると今まで出来たことが出来

なくなった～世の中の補助が必要なことがようやくわかった

ここを巻き込んでおくことがパラムーブメントに必要なポイントだと思う

中森氏

- ・パラリンピックはオリンピックがあるから存在する～共生社会の観点へ
- ・JOC と川崎市のパートナーシティ構想←市長としてはパラ視点が強かったが、都市づくりとしても捉えることができる
- ・ロンドン＝成熟社会のケース～ボランティア、パラリンピックの観点から→サステイナビリティが政策の根幹にあってほしい

ロー委員

- ・どの事業にしても予算を使うわけだから、効果測定を必ずやってほしい

唐仁原部長

- ・新しい総合計画において、これまでのアウトプットではなく、これからはアウトカムという考え方が特徴となる～それをやることで市民にどういう便益があるのか
- ・H28 予算の調整は終盤に差し掛かっている。今回の提案を実現する上では、行政が主体になって行うもの、協賛金を民間から募って実施するものなど色々なケースがあると考えている。
- ・予算としては少し特殊なパターンではあるが、オリパラ関係ということで一定の予算を確保し、その中で状況に応じた対応ができないかと考えているところである。
- ・今日は一度ご意見をお聞きしたのみ、今後意見調整も必要かと思う

山本課長

- ・今後のスケジュール

＝事務局として、市庁関係部局への問い合わせ、関係委員へのさらなるヒアリングなどで情報統合していきたい～特に欠席のぐるなび杉山委員へは打診したい

＝2月に第2回会議で、整理結果をご提示したい

→その議論をふまえて推進ビジョンとしてとりまとめた

(縮め)

かわさきパラムーブメント推進フォーラム 健康・スポーツ分科会 摘録

日時 平成 27 年 11 月 30 日（月）18：00～20：00

会場 川崎市役所 第 3 庁舎 12 階総合企画局会議室

出席者

委員 遠藤委員、菊地委員、五島委員、島委員、須藤委員、瀬戸山委員、横島委員
オブザーバー JPC 中森顧問、JOC 日比野顧問

事務局 唐仁原都市経営部長、山本企画調整課担当課長、佐藤企画調整課担当係長
荻原市民スポーツ室長、高橋市民スポーツ室担当課長

ADK

議題 開会

唐仁原部長あいさつ

委員紹介、事務局紹介

議事

- (1) 2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた本市の取り組みについて
- (2) 「かわさきパラムーブメントへの提案」
- (3) 取組提案について
- (4) その他（次回会議等の開催等）

【以下発言要旨】

開会 山本課長

挨拶 唐仁原部長

- ・今回はまずは委員の皆様の提案の共有が目的→その上で実現手法を検討していく
- ・川崎市では来年度オリパラの担当部署を設置する

資料確認 山本課長

委員・事務局自己紹介 遠藤委員から順に全員

議事進行 石山氏

- (1) かわさきパラムーブメントの推進に向けた検討状況 佐藤係長
- (2) 「かわさきパラムーブメントへの提案」 中森顧問
 - ・事業提案の前に重要なことを指摘し、共有していきたい

- ・トレーニング原理→人間は運動による超回復が必須→運動を習慣化し、川崎には是非元気な市民を作ってほしい
- ・スポーツの価値＝課題に対する挑戦～失敗と成功の繰り返しから自己実現へ
- ・スポーツの実施により良好な人間関係の構築につながる
- ・選手強化～健常者に対し障がい者は日々の強化環境や手順が無い、もしくは薄い
- ・スポーツの導入＝きっかけにすぎない→それをいかに日常化できるか
- ・障がい者スポーツ＝TV 放送が少ない、限られている ex;ロンドン大会におけるゴールボール、サッカーW杯は深夜でもやっているし、話題に時間を追っている
 - 障がい者スポーツの醍醐味がわからない、伝わらない
- ・障がい者スポーツ研究の場が大学でない＝学術研究者がいない～ex;筑波大、鹿屋体育大
- ・競技用車いす＝扱いやすい、動きやすい→小学生に乗せたい、授業で体験させたい＝合同体育、推進校に車いすを置いておく
- ・スポーツ用義足も同様～費用がかかるのでメーカーとのタイアップも
- ・人間関係をよくするためには…ここを変え、助け合いの社会～そのために皆で知恵を出し合う
- ・「奇跡の村」～NHK 里山主義、里海主義～顔が見える地域での取組が必要
- ・日本独自のよさ＝世界の中で日本しかないポイント～川崎の良さとして発信していければいい
- ・川崎が日本で一番に取組むことが重要～スポーツや伝統行事などで地域で取り組んでいくことから～自己中心でなく助け合いに取り組む人を多くつくっていく

(3) 取組提案

1. 遠藤委員

- ・競技用義足などの研究をやっている→サイボーグ設立～アスリートよりの用具などをどうやって子供用にどう役立てるのか～公益法人では進めにくい
 - ・ゴールデン GP で T44 レースに、サイボーグ義足 3 名参加→男女、走り幅跳び...と広げて行きたい
 - ・放映権の問題で、パラリンピックをすべて放送するのは難しい←競技数が多い、オペレーション難易度高い→オリパラ同時開催は難しいが今後考えるべき
 - ・等々力での練習を積極的に公開し、市民交流の場にしたい～ビジネスへの流れを作りたい
 - ・鹿屋体大において研究をやっている～情報をシェアしていきたい
 - ・日本でハロウィンが盛り上がっている～然しながら大人だけしか見ない。米国では下肢欠損の障がい者がフック船長のコスプレをするなど、積極的に楽しむ姿を見た。
- 川崎の障がい者にも積極的に参加したい人、子供もいる→老若男女、障がい者・健常者関係ないダイバーシティ化が重要

2. 菊地委員

- ・総合型地域スポーツクラブ **SELF**=高津区
- ・文科省委託事業の中でまずはやっていく～それから事業へ
- ・「オープンエアー」キーワード～障害者が参加できる教室、場所、施設+サポーターを全市民に浸透したい
- ・スマイルメーカー～上記サポーターにポイント制度
- ・2016年中に公募してやっていきたい
- ・川崎に10ヵ所の総合型地域スポーツクラブがあるのでここからやっていきたい
- ・ポイントでお米がもらえるなど
- ・2021年に5万人のサポーター獲得

3. 島委員

- ・チャレンジドクリエイティブラボ=障がい者に収入を確保できるようなクリエイティブ作品を促進
- ・島桜子事務所=国会議員ワーキングチーム(WT)推進
- ・2020組織委→パラリンピックでの集客満員のためにWT立ち上げ
- ・WTは国民的ムーブメント形成を重視→レガシーへ～これこそを川崎市で立ち上げたい
- ・川崎市のポテンシャル～東京近郊、テクノロジー集積等々～を生かすべき
→教育現場へつなげていくのが早い
(スポーツ)
- ・点では存在する活動を線にして面にする=かわさきエブリデープロジェクト
～学校をベースに年に一度はイベントを行い、全国へ発信
～モデルイベントとしての位置づけを獲得～他自治体への波及も
- ・小中高へのキャラバン～座学+体験、パラ競技観戦も～川崎市主催競技がベスト
- ・子供が体験したこと=必ず大人に波及する ex;千葉でのジャパンパラ取組など
- ・ボランティアへの波及 ex;車いす競技における体育館の床磨きなど
- ・フェスタ=集大成のイベント～キャラバン発表の場、パラアスリート紹介～ワンデーからツーデー、ウィークへ
- ・メディアにおけるフェスタの取り上げ促進
- ・パラリンピック成功のために必要な裾野の拡充が主目的
- ・予算は市で行うべき=パラリンピック公式化があればオリパラスポンサーも
- ・寄付、基金で川崎市出身アスリート輩出のためにつながることも必要では
(アスリート以外)
- ・パラリンピックを応援するテーマ→商品になるもの「スイーツ」等を作成、コンテスト実施→メディア発信→販売場所・収益を獲得
- ・カード～クオリティの高いアートなどをカード化→市内郵便局などで販売

- ・障がい者も納税者へ
(日本障害フォーラム)
- ・障がい者権利条約批准→広報が少ない～川崎市が応援する
- ・何を掲げるか、標章、フラッグにするかは今後の議論であろう

4. 須藤氏

- ・13年ぐらい活動をやっている
- ・提案というより、自分で引き受けて実行することが大事
- ・障がい者の就労体験＝ダイバーシティの象徴的なもの→正規雇用へのきっかけ
- ・川崎市に存在するリソースを使っていく
- ・心を変えて、助け合う社会、知恵を出し合うきっかけがスポーツやエンタテインメントを利用していく＝かっこよく、わくわくするもの
- ・川崎市障がい者5万人(6%)→学校で40人のクラスに2人いるべきがない
→教育現場での取り組み＝大きなテーマすぎる
- ・フロンターレ、レッドウェーブ、フロンティアーズの運営で働いてもらう
～フロンターレ1試合で100名のスタッフ必要→6人障がい者が参加する
～1人2000円＝交通費として支給する～課税の問題
→年間365人～400人目標 →約80万円＋経費＝実費で200万円かかる
→クラウドファンディング＋市シティプロモーション＋協賛募集でまかなう
→来年1000人→2020には1万人へ～川崎モデルにしていきたい
- ・ハロウィン すでに障がい者＋ホームレス 140人～170人働いてもらっている
→一生懸命やってくれて、アルバイト雇うより安い＝企業にとってメリット
- ・リソースの活用で、公費を使わずやっていくべき
- ・点を線にする～市庁内でも横連携をやってほしい ex;健康福祉局～市内に存在する就労支援者を見つけていく、経済労働局～技術開発
→可能性が広がる

5. 瀬戸山委員

- ・認知をあげる→かっこよさ、感動～ユーチューブなどにおけるかっこいい映像が必須～市民、子供への波及～ex;義足
→どこで流すか＝川崎におけるプロスポーツの場、ハーフタイム、アゼリアビジョン、市広報、デフバレー
→体験、トークショー、展示も
- ・クラブチッタ、ラゾーナ～皆が見ているところが大事
- ・川崎みなと祭り～テニスコートあいている
- ・かっこいいな→体験へ～車いす駅伝、ファンラン

- ・川崎のトップアスリートが参加する→インフルエンサー→かっこいいにつながる
- ・川崎にトップスポーツ拠点～ex;スイス施設会員 180 万人＝年間会費 5000 円程度
- ・会員、ポイント、ボランティア～対策に協力することで市からの優遇

6. 横島委員

- ・すぐにそこにある活動
 - ・スポーツできる子→野球、サッカーへ
 - ・苦手な子→できるスポーツがあるのでは～ボッチャ、フライングディスク、スカットボール
- これを学校で取り上げる、区対抗までいければいい
- ・高齢者への生涯スポーツとしてもいける～地域交流も
 - ・小さなピースであるが、他の提案にはめてもらえばいい

(4) 意見交換

日比野顧問

- ・オリンピック側ではマイナーでも全日本大会は放送がある
- ・盛り上げ策ということでは結構流れは来ているのでは ex;代々木でのブラインドサッカー大会での集客
- ・提案がひとつでもふたつでも実現できればいい

横島委員

- ・活動場所がまとまっていない～各施設が一本にない→できるのであれば、横浜ラポールまでいかなまでもぐらいか、あるいは逆に世界に誇れる施設があれば

瀬戸山委員

- ・月間、ウイークとか集中的に川崎でやっていくようなこともいいのでは

須藤委員

- ・物理的アクセシビリティの紹介マークなど実際にあるものをうまく情報共有できればいい

島委員

- ・色々な動きがあるが周知されていない
 - ・90%の国民が知っている→細部はわからない
- ～最後の日常化までどうやってプロセスがあるべきか
- ・子供は必ず親に伝える→純粋な子供の力で進めれるのでは
- 行き先はトップアスリート輩出へ

菊地委員

- ・少しの時間でも情報が共有できるほど、不足している
- このプロジェクトを機に、横串のコミュニケーションで色々な課題にあたっていきたい
～点の解消へ

遠藤委員

- ・成功事例で、ブラインドサッカー、千葉の車いすバスケット～市民の巻き込み、市長のコミット、ブラインド＝松崎氏、SNSの形成といった裏での動きがある
- ・市役所で会議室でやっている状況でない～市民とリアルにインタラクティブにやっていくことでは
- ・須藤さんのやりかたなどが一番見えるものではないか

中森委員

- ・プロスポーツとのタイアップ、ゴールデングラプリもいい
 - ・パラスポーツの習慣化～川崎7区全域である日にやるとか
- ～パラムーブメントといういい言い方、新たなネーミングを見つける
- ・障がい者と子供がハロウィンでコンテスト～区対抗などで地域でのまとまりが
 - ・自治会、その延長→小学校区→区といった広がり川崎から
 - ・そこから助け合いへつながっていく

唐仁原部長

- ・H28 予算の調整は終盤に差し掛かっている。今回の提案を実現する上では、行政が主体になって行うもの、協賛金を民間から募って実施するものなど色々なケースがあると考えている。
- ・予算としては少し特殊なパターンではあるが、オリパラ関係ということで一定の予算を確保し、その中で状況に応じた対応ができないかと考えているところである。

山本課長

- ・本日の各顧問・委員内容のレビュー
 - ・今後のスケジュール
- ＝横展開できそうなものは個別に伺いたい
＝2月に第2回会議で、整理結果をご提示したい
→その議論をふまえて推進ビジョンとしてとりまとめたい

(締め)